

平成 29 年度戦略計画に係る意見等	市の考え方
<p>【基本目標 1：若者が帰ってこられる産業をつくる】</p> <p>○「今後の方向性」について「デザイン系をテーマとした高度専門人材を輩出する高等教育機関としての整備を進めます。」以前から話のあるデザイン系の高等教育機関ですが、「若者が帰ってこられる産業をつくる」といった基本目標に対して、どのような人をターゲットにした、どのような産業の整備をめざしているのか今一度確認のためご説明をお願いします。</p> <p>○「若者が帰ってこられる産業をつくる」について、地域産業 市田柿等の海外展開を見ると食にまつわる事業はまだ可能性が期待できる。食の拠点として商品開発、マーケティング戦略、人材活用</p> <p>○シードル特区取得まで、スムーズで評価できる。イベントなど一過性ではなく続けること、また生産者へのサポートが重要</p> <p>○新卒＝地元こだわらず一度外を見ることは非常に重要。進学を理由に地元を離れる→Uターン就職をサポートする制度また、それに協力してもらえる企業誘致</p> <p>○創業機運～仕事人のマッチング～の視点、方向性はその通りと思います。具体的な方策について例示するとより分かりやすくなると思います。ゲストハウス、カフェ等の出店など</p>	<p>【小戦略①：「新たな産業振興の拠点」の形成】</p> <p>【小戦略②：新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦】</p> <p>○航空機産業の拠点、産業センター移転による既存産業（食品系など含む）の支援、産業振興と人材育成の拠点形成（旧飯田工業高校）に併せ、地域のデザイン力を高めていけるよう、産業界との協働により一緒に研究しているところです。</p> <p>【小戦略②：新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦】</p> <p>○食品産業クラスター形成支援、食品産業分野の「リニア時代を見据えた食品産業づくり研究会」への支援に取り組んでいます。市田柿のブランド化、品質向上のための施設整備の支援や海外を含めた消費拡大と販路拡大に関係機関と連携して取り組んでいます。</p> <p>【小戦略②：新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦】</p> <p>○ご意見のとおり取り組んでいきます。</p> <p>30 【小戦略③：地域産業の担い手確保】</p> <p>○ご意見のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30 年度から新たに高校生と地元企業とを「つなぐ」事業を開始 ・南信州地域振興局（長野県）とも一緒に取り組んでいきます。（南信州就活セミナー、保護者向け就活セミナー等） <p>【小戦略③：地域産業の担い手確保】</p> <p>○ご意見のとおり参考とさせていただきます。</p>

<p>○研究開発型機能の強化については賛同します。29 年度同様「戦略的な企業誘致の推進」についても継続テーマとして欲しい。</p> <p>○新たな産業を作るということは大切なことではあるが、同時に既存の産業への将来につながる支援にもう少し目を向けるべき。事業承継の問題は大きく、形を変えても必要な地域産業が存続していくような支援策が必要。</p> <p>○リニアに関する移転対象企業への積極的対応が不足しているのでは。誘致に積極的な市外への転出が起きてしまうのではないか。</p>	<p>【小戦略②：新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦】 ○ご意見のとおり取り組んでいきます。</p> <p>30【小戦略③：地域産業の担い手確保】 ○地域産業の持続的発展に資する既存企業の振興策は重要と認識しており、30 年度から事業承継をサポートする仕組みづくりに取り組んでいます。</p> <p>【基本目標 12 小戦略④：リニア事業に関連する社会基盤の整備】 ○代替地の情報提供はじめ、きめ細かな対応に努めていきます。</p>
<p>【基本目標 2：飯田市への人の流れをつくる】 ○「飯田市への人の流れをつくる」について、飯田市が子育てにやさしい環境であることを実感。市や地域の公民館等より多彩なプログラムが提供されている。(人形劇フェスタ、おもしろ科学工房、かわらんべ等々)</p> <p>○2016 年→2017 年、体験プログラム参加者、減少の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド需要に対して、遠山郷のプロモーション、ex 上村のまいか娘 ・別冊 KURA 飯田の発行は非常に良かった <p>○「地域の魅力プロモーション」、「国内外から多くの人を惹きつける魅力づくり」ですが、基本目標 4.8.1 0.1 2 とも関わるものだと思います。 そうした地域総合活性の視点での表記もあってよいかなと思います。</p> <p>○いずれの取り組みも賛同します。具体的な取り組みとして、リニア時代を見据えた「セカンドライフプラン」を提案していくことを、受入施設とも連携して検討して欲しい。</p>	<p>【小戦略①：飯田だから実現できるライフスタイルの提案】 ○引き続き取り組んでいきます。</p> <p>【小戦略③：「結のまち」飯田においてなんしょ】 ○全国的に「体験学習」の位置づけが高まり、地域振興策として体験教育旅行の受入れを進める地域が増えてきています。 ・ご意見のとおり参考とさせていただきます。</p> <p>【小戦略④：地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション】 ○ご意見のとおり、総合的な視点は重要と認識し、その考え方で戦略計画としています。関係性が分かる表記にさらに努めます。</p> <p>【小戦略①：飯田だから実現できるライフスタイルの提案】 ○これまで飯田市が取り組んできた人材サイクルの構築では、若い世代をターゲットにしていますが、社会背景や多様なニーズにあわせて柔軟な検討が必要であると考えています。</p>

<p>○移住者に対する税金や不動産取得の支援・優遇措置が設けられているのか。魅力発信だけでなく、飯田市に住むことの動機づけとして必要では。</p> <p>○観光に関しては、飯田市だけで考えるのではなく、飯田下伊那、さらには上伊那、木曾等との広域的な連携が必要。飯田市として広域連携を進めていくことの方針が出されるべき。</p> <p>○外国人観光客を増加させるための課題が明確になっているのか。外国への情報発信と実際に来られる方の対応の両面から課題への取組が必要。ただ外国人の前に日本人に来ていただくほうが先ですね。観光客の観光地への交通手段をどう考えているのか。</p> <p>○中心拠点の位置づけが不明確。全ての市民が中心拠点としての整備の意義を理解していただくことが必要。</p>	<p>【小戦略①：飯田だから実現できるライフスタイルの提案】 ○リニア開通を見据えた定住支援策として、今後検討していきます。</p> <p>【小戦略③：「結のまち」飯田においでなんしょ】 ○リニア駅が長野県の南の玄関口、三遠南信地域の北の玄関口となるよう県内外との広域的な連携を進めていきます。広域連携等、重要と認識しており、南信州観光公社も包含した DMO 設立に取り組んでいます。</p> <p>30【小戦略②：「結のまち」飯田においでなんしょ】 ○交流人口や関係人口の拡大に向けて観光資源の掘り起こしや効果的なプロモーションを検討しています。30 年度からは市観光課にインバウンド担当の職員を配置し、増え続けている外国人観光客への対応も検討しています。</p> <p>【小戦略⑤：魅力的な中心拠点の形成】 【基本目標 12 小戦略③：リニア時代を見据えた土地利用計画の策定】 ○リニア駅を広域交通拠点とし、中心拠点、地域拠点、交流拠点が相互に連携した「拠点集約型連携都市構造」を推進していきます。</p>
<p>【基本目標 3：地育力が支える学び合いで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む】 ○「飯田らしい」という言葉が出てきます。わかるようで、わかりにくいような感じを受けます。</p>	<p>【小戦略①：飯田らしい小中連携・一貫教育の推進】 ○飯田市教育振興基本計画（飯田市教育の課題と今後の方向性）より「飯田らしさ」が重要な時代・・・飯田市は、住民主体の公民館活動が耕してきた学び合いの土壌の上に、市民一人ひとりのムトスと結いの心が息づき、市民主体、あるいは市民と行政の協働による多様な地域づくりが進められてきた。こうした自主自立の気風の下に、子どもの育ちや、大人の学びにおいても、それらを地域で支える「地育力」が育まれてきました。こうしたことを、変化の激しいこれからの時代においても変わることのない飯田の強みとして持続し高めていけるよう、地育力の向上</p>

<p>○「ICT活用のための校内研修の実施率」 2017 年度に校内研修が多く为学校で実施されたことが解るが活用状況は</p>	<p>と地育力を活用した学び合いにより、ムトスの心、結いの心を育ていくことが重要です。</p> <p>【小戦略④：ICT を活用した教育課題への対応】 ○モデル校 3 校区（竜東中学校区、旭ヶ丘中学校区、遠山中学校区の中学校 3 校・小学校 7 校）に ICT 機器やデジタル教材を導入し、各校固有の教育課題の解決に向けた ICT を活用した実証研究に取り組み、成果や課題等を整理しました。 遠山中学校区：小規模校・少人数学級における多様性の育成 旭ヶ丘中学校区：特別支援教育、不登校児童・生徒への学力保障 竜東中学校区：グローバル化に対応できる思考力・判断力・表現力の育成</p>
<p>4 【基本目標 4：自然と歴史を守りいかに伝え、新たな文化をつくりだす】 ○「今後の方向性」について 「平成 30 年の AVIAMA 総会を起点として、…、「人形劇の世界都市」に向けて取り組んでいきます。」 AVIAMA 総会を起点とした「人形劇の世界都市」としての取り組みは、国内、アジアの加盟都市を増やすことにとどまらず、いい人形劇を AVIAMA の中でどう発展させていくかという今後の視点を持つことも大切ではないかと思ひます。そうすることで、この基本目標 4「…新たな文化をつくりだす」を今後より評価できるのではないのでしょうか。具体的には AVIAMA 総会で議論される人形劇のプロジェクトを市民、団体から募り、飯田市として提言する。今回加盟となった国内やアジアの都市との協働プロジェクトをたてその中核都市となるのも素敵かもしれません（これまでに提言し、既に承認を受けて活動しているようでしたら申し訳ありません）。いい人形劇が魅力的で活発な活動をしていた結果、近隣の都市の AVIAMA への加盟が増えた。という形が理想的だなとも思ひました。 ○人形劇の世界都市としての推進力・求心力の向上</p>	<p>【小戦略③：人形劇の世界都市としての推進力・求心力の向上】 ○シャルルヴィル・メジュール市との交流がベースとなり、AVIAMA の設立・参加、アジア初の開催・アジアでのネットワークの拠点など、今後も取組を積み重ねていきます。 ・今年 8 月、アジア地域で初めての開催となった AVIAMA 総会とそれ に続く理事会では、新しく 4 都市（セベリア市：スペイン、雲林懸^{ウーリンケン}：台湾、春川^{チュンチョン}市：韓国、南あわじ市：日本）が協会に加盟しました。 【小戦略③：人形劇の世界都市としての推進力・求心力の向上】 ○人形劇は飯田市の固有の財産であり、様々な工夫を重ねて、認知度や</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市民の意識冷ややか 子育て世代は享受 学生ボランティア参加減少 ・国内でも認知度が低い ・人形劇フェスタは 40 周年を盛況のうちに無事終えたが 10 年後の 50 周年に向けて展望は 	<p>活動そのものを高めていきます。</p>
<p>【基本目標 5：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】</p> <p>○29 年度戦略の③に「飯田版！上質な子育て環境」とありますが、この言葉は広報いいだの文中で使用されました。たしか戦略にはこの表現はなかったように思います。「上質」とは、何を示すのか疑問です。</p> <p>○「今後の方向性(第 1 行～第 3 行部分)」について</p> <p>「若い世代」の結婚、出産が目標ですが、その「若い世代」に働きかけた具体的な啓発事業は、どんなもので、どんな拡大をしようとしているのか、又、「適齢期の世代への出会いの機会の提供」についても、具体的に示していただきたい。併せて、それらをどのように広報し、啓発しようと考えているのかもご教示いただきたい。</p>	<p>【小戦略③：「飯田版！上質な子育て環境づくり】</p> <p>○豊かな自然や、地域の絆に支えられた子育て環境こそ飯田の持ち味であり、都会では望めません。これらを上質な環境と考える子育て世代へのメッセージとして「飯田版の上質な環境」として用いています。</p> <p>【小戦略④：結婚したいと思う若者へのライフデザイン支援】</p> <p>○地元の若者に対するライフサポートについては、子育ても含めた人生について考える（ライフデザイン）意識啓発事業、未来のパートナーとの出会いの機会をつくるための各種イベントの開催や結婚相談を実施します。また、高校生を対象として、結婚や子育てといった人生を考える「ライフデザイン啓発」事業を実施しました。子育ての喜びや、新生児ダミーを抱く体験とともに、晩婚化の状況などを説明し、生徒と共に「なぜ未婚・晩婚が増えているか」をテーマにグループワークを行ないました。本年度は実施する高校を増やす方向で検討しています。</p> <p>結婚の支援では、出会いの場の創出のため、社会福祉協議会に委託して飯田市結婚相談所を開設しています。平成 22 年度から結婚支援アドバイザー 1 名を配置し、飯田市結婚相談員と連携を図り相談事業を実施しています。結婚相談所の業務として、相談窓口の開設、お見合いの設定、各種婚活イベントの実施などを行っています。また、各地区でも、結婚相談所との連携により、創意工夫を凝らしたイベントを積極的に行っています。</p>

<p>【基本目標 6：「市民総健康」と「生涯現役」をめざす】</p> <p>○「今後の方向性」を含む、「人材の確保」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市が取り組む初の介護予防拠点」であるので、事業の効果を専門的に検討し、計画的に立案、実施していただきたい(指導者の養成も含め)。 ・地域包括ケアシステムの中核と考えられる地域包括支援センターの専門職確保、それと、どの基本目標にも掲げられていない「介護人材不足」の問題は、現在も、2028 年に向けても大変な課題のはずですが、どこかで少しだけでも触れておくべきではないか、と思います。 	<p>○高齢者福祉計画・介護保険事業計画（第 7 期計画）2018 年度～2020 年度において進めていきます。「介護人材不足」については、大きな課題と認識しています。</p>
<p>【基本目標 7：共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる】</p> <p>○「今後を見据えたときの課題」「今後の方向性」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動で「何をするか、していくか」についての記載はあるものの、「地域の中で誰が担っていくか」という「人」の部分が、実は一番の課題のはずです。「基本目標 8」にも含まれると思いますが、「地域福祉活動を継続していく人材」を確保することを明らかにしておくべきではないか、と思います。 	<p>【小戦略④：多様な主体による日常生活における支援】</p> <p>○地域企業や NPO 法人など多様な主体とともに地域の課題に対応できるような人材・組織が必要だと認識しています。その視点で取り組んでいきます。また、地域の中で生活支援の担い手として期待される元気な高齢者等が、具体的な活動に取り組むように誘導する仕組みづくりを検討します。（30 年度における課題対応事例：社会福祉事業者による家庭ごみの処理）</p>
<p>【基本目標 8：新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる】</p> <p>○飯田市活性化のため、飯田市が掲げる「田舎へ還ろう戦略」を掲げ積極的に取り組まれています。一番重要なのが「永住」だと思います。南信州は、歴史・文化・環境が整った地域ですが、若い世代を引き付ける魅力と、収入面を支える既存企業への産業振興策は、必要不可欠であると考えます。今後、リニア時代を見据えて、特に若い世代に対して魅力をどのように発信し、定住を促していくのが課題であると感じます。</p> <p>○「今後を見据えた時の課題」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもよい視点で分析されており、今後の指針となると思う。 <p>「今後の方向性」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良 	<p>【基本目標 2 小戦略①：飯田だから実現できるライフスタイルの提案】</p> <p>【小戦略④：地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション】</p> <p>○地域経済活性化プログラムや産業振興と人材育成の拠点など、今後も産業界と一緒に取組を推進していきます。また、若い世代に対しての魅力発信については、シティープロモーション事業とブランディング事業とが連携し、飯田の認知度やイメージを向上させていきます。</p> <p>○引き続き取り組んでいきます。</p>

<p>○地区、地域のまちづくりでいろんな意見が出るのですが、組合加入、人と人とのつながりが、なかなかできないものです。知り合いの人達はいつでもあいさつ、立話ができます。若い方達と接することで知恵をもらいます。私はよく子供さん達と話、声かけなどで楽しくすることも大事かと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動は高校生、中学生、小学生と一緒に活動ができます。 <p>高校生との料理(調理クラブの皆さん)地域住民と一緒に行事のある時は行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけでなく自分達で実行していくことが大事でしょうね 	<p>【小戦略③：地域自治を守り育むための仕組みづくり】</p> <p>○組合加入や地域課題への関心について、若年層へのアプローチを含め行政としても地域としても課題と認識しています。地域活動を通じて、関わりを深めることが大事であり、引き続き市民の皆さんとともに進めていきます。</p>
<p>【基本目標 9：個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する】</p> <p>○多様性を生かした地域づくりは大切であり、女性活躍推進法などの観点からすれば、企業や地域の多様性を多く求めていく必要があります。しかし、何故多様性が必要であるかを考えると、保育所・児童施設の夕方以降や祝日・休日などの対応や、介護・看護施設の対応が追いついていない状況があげられます。今後、高齢化が進んだ時に、介護離職等にならない施策を生み出すことが必要であり、どこまで多様性を持たせるのか議論が必要であると感じます。</p> <p>○全体的に抽象的で曖昧。今後についてもぼやけている印象。</p> <p>○「今後の方向性」について</p> <p>「多文化共生社会の推進に向けた環境づくり…引き続き、…まずは、市役所内における…構築して進めます。」とあります。まずは「市役所内における連携体制の構築」ということはもっともではありますが、「今後を見据えた時の課題」の中に「…リニア中央新幹線の開通…、外国人の交流・定住人口の増加することが必至である…、意識醸成や地域や職場の環境づくりが必要…」とありますので、市役所内だけではない、地域が一体となった「今後の方向性」があってもよいかと思いました。</p>	<p>【小戦略①：誰もが安心して地域で活躍できる、ひと・まちづくり】</p> <p>○人材確保をはじめ課題は多く、すべてに対応することは難しい状況があります。地域や企業との協働により様々な工夫が必要だと考えています。</p> <p>【小戦略④：多様性を地域に活かす言語バリアフリー】</p> <p>○ご意見のとおり、国際交流関係団体とも連携した、外向けの発信も必要であると考えます。飯田国際交流推進協会主催の「多文化共生と小さな世界都市を語るシンポジウム（「市民が考える、地域コミュニティー・多文化共生」、「外国人住民から見た飯田下伊那」）など地域の皆さんと一緒に取組を推進していきます。</p>
<p>【基本目標 10：豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる】</p> <p>○取り組みと数値目標、実績、それらのデータに根ざした次の動きがよくわかる。</p>	<p>○引き続き取り組んでいきます。</p>

<p>【基本目標 1 2：リニア時代を支える都市基盤を整備する】</p> <p>○「これまでの成果」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 項以降にこれまでの動きがよく見られる。 <p>「今後～」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなプロジェクトが「進行中」であり、現在「かたち」のある成果がない以上評価できない。 <p>○リニアの駅は大変うれしいのですが地元の方は大変かと思います。駅を降りたときに南アルプスが見える、自然を目の前にすることでまたアクセスのある公園、施設等に見ごたえのある場所があれば飯田は良い所だと思っていただけること</p>	<p>○引き続き取り組んでいきます。</p> <p>○引き続き取り組んでいきます。</p>
<p>【全般】</p> <p>○何をもって市民は住みやすいと判断しているのかもっと具体的な意見を元に目標を決めたほうが良いと思う。</p> <p>【別冊データ集】</p> <p>○1 番私が今後の飯田市の未来を明るくする為に必要な事は 国公立の大学 を作る事だと思います。</p> <p>別冊データ集の 15 ページ</p> <p>進学率 65.9%とありますが、これは飯田市内の大学という訳ではないですよね？</p> <p>飯田市には飯田女子短大とサテライトキャンパス？</p> <p>の 2 校しかないと思います。このサテライトキャンパスはほぼ別の意味で使われてるようなのでさておき、男子は飯田市外でないと進学できないということになると思います。</p> <p>女子も、短大ではなく、国公立の大学目指したいと思って進学する子は市外の大学へ行かなくてははいけません。</p> <p>これって大学へ進学するタイミングで、高校卒業したほとんどの若者が市外地へ出てし</p>	<p>○市民意識調査はじめ、議会や各種団体、やらまいか提言などを基に幅広く意見をお聞きしているが、今後も様々な指標等を参考にしながら進捗状況の確認や目標設定に努めます。</p> <p>【基本目標 1 小戦略①：「新たな産業振興の拠点」の形成】</p> <p>○進学を志す若者の受け皿として、また地域の将来を担う人材の育成や地域振興・産業振興を進めていくうえでも 4 年生大学の設置は地域の長年の悲願でした。その可能性を 30 年来探ってきましたが、課題も非常に大きく、現在では、少子化、定員割れ、経営難といった問題により大変厳しい状況にあります。</p> <p>こうしたなか、平成 29 年度から産業振興と人材育成の拠点に「信州大学航空機システム共同研究講座」を開設し、サテライトキャンパスの設置を目指すなど、実現できることから取組を進めています。</p>

もう可能性が高いということになります。

これを続けていては、若者現象の歯止めを止める事が困難に思います。

なので、飯田市に大学が必要だと感じています。

飯田市で活躍されている色んな方とお話しする機会がありますが、皆口々に、

「飯田市には大学がないからなあ」と仰います。

以前飯田市に大学ができるというチャンスがあったが、別の市にその権利がとられたと聞きました。

その話はもう来る事はないのでしょうか？

大学が出来れば、若者が出て行くどころか、逆に市外や、県外からも飯田市に若者がやってくると同時に、1番お店が欲しいとする年齢層のアルバイト人口を増やす事ができ、飲食店も集客率が上がると思われれます。それに目をつけた人達もお店を出店しやすくなると思います。

そして、そのまま飯田市に卒業後定住する可能性も上がります。

それに伴い大手企業がもう少し増えてくれるといいんですが、リニアの事もありますし、大学の質次第で、それは増える可能性あると思います。

高齢化率をストップさせる為に若者達がここに住みやすい環境を整えてあげる事がとても大事だと感じました。

実際に今短大生として学校へ通っていますが、夜図書館が閉まると、家以外で集中してテスト勉強をする場所がありません。

テスト間際に怒涛のごとくレポートが宿題として出されるので、テスト勉強する時間がなかなか確保出来ず、短期集中でテスト勉強せざるを得ないという事がわかりました。

仕方なく、深夜やっている飲食店チェーン店へみんな行きます。特にテスト期間中の間、マックは深夜学生でいっぱいです。ですが、営業妨害という事で、禁止になりました。

自由にテスト勉強さえできない環境です。

深夜まで勉強ができる場所を提供するというのも、1つお願いしたいと思いました。

○勉強できる場所については、現在、市本庁舎やりんご庁舎の市民サロンを設けて、夜 10 時まで開放し利用していただいている状況です。

○別冊 15 ページ

保育料の状況で、平均保育料が下がっています。

これは子育て世代の収入が下がっているという事だと思っておりますが、これは全国的に広がっている現象だとも思います。

これを少しでも上げられるように、より良い賃金、環境で働ける企業に来てもらう事が必要です。

名古屋にいた時に比べやはり、全体的に給料が安いと感じますし、職安に行っても魅力的と感じるお仕事がほぼありません。

そして、子育て世代の人達は今共働きが当たり前の状況になっています。

子育て世代の女性が働きやすい環境を作る事も大事だと思います。

子供を幼稚園に預けてから、お迎えの時間を活用して働くとなると、なかなか難しく、給料の低いパートでもなかなか選ばれません。

9時30前後から15時もしくは16時までの間残業なしで働ける所があれば、子育て以前バリバリ働いていたという優秀な人材も確保しやすいと思っておりますし、飯田市全体の収入を増やす事にも繋がりますし、延長保育が必要方や、学童保育の利用者も減り、子供と接する時間が増え、子育てしやすい街として、県外からも注目され、Iターン者が増えると思っております。

○最近都会では保育園、学童がどこもいっぱい入れないというのが常識となっています。その原因が、働くママ達が延長しなければ働けない職場しかないからです。それならまずは、保育園を増やす事をしなくてもいいような環境を作ればいいと思います。共働きをしないと生活できない家族が増えている事を逆にとり、先駆けとして、飯田市が熱心にこの事に取り組めば必ず全国から注目が集まると思います。

働くママを応援するとして、通常の幼稚園、保育園の時間内でも働けるよう、企業や、会社に呼び掛け、どんどん無理なく子育てしていける環境に変えて行く事を提案します。

【基本目標 5 小戦略①：信頼と絆で応援、健康な子育てのまちづくりの推進】

【基本目標 9 小戦略①：誰もが安心して地域で活躍できる、ひと・まちづくり】

○名古屋に比べて給料が安い点については、引き続き産業振興策で努力していきます。

女性が働きやすい環境づくりは、これまでも児童クラブや認定こども園の設置、病児病後児保育などに取り組んできましたが、さらに他地域との差別化が図れる子育てしやすい地域を目指して、多様な主体と連携して取り組んでいきます。

【基本目標 9 小戦略①：誰もが安心して地域で活躍できる、ひと・まちづくり】

○保育園や学童については、概ね問題なく運営されていると認識しています。（学童は開所時間を18:30まで延長した）

職場環境や事業所自体に関する課題は、重要なお指摘と受け止めさせていただき、ワークライフバランスの視点から事業所への呼びかけを行っていきます。ご提案を参考にして他地域の先駆けとなる工夫ある取組を企業と共に考えていきます。